

平成 30 年度 第 1 回高知市里山保全審議会 会議録（要旨）

◇日時 平成 31 年 2 月 7 日（木） 9 : 30 から 11 : 30 まで

◇場所 高知市たかじょう庁舎 5 階会議室（北）

◇出席者

〔委員〕 川田勲会長，橋詰辰男副会長，堀澤栄委員，藤井聖子委員，松本美香委員，山本堪委員，兵等弥生委員

－以上，委員 7 名出席で審議会成立－

（欠席委員＝笹原克夫委員，大槻知史委員，北山めぐみ委員，塚本愛子委員）

〔事務局〕 宮村環境部長，今西環境部副部長，児玉環境政策課長，高橋環境政策課長補佐，山中自然保護担当係長，依光主任，山本主査補，宮本主査補

◇開会◇

○委嘱式

○委員自己紹介

○事務局自己紹介

◇会長・副会長の選出

それぞれ委員の互選によって定める。

会長…川田委員 副会長…橋詰委員

◇議題 高知市里山保全事業の経過及び取組について

【審議事項】

高知市里山保全条例の経過等（資料①）

里山保全地区における取組について（資料②）

参考資料：平成 30 年度版里山保全事業，高知市里山保全関係例規，平成 24 年 5 月 29 日付け高知新聞記事，南ヶ丘で間伐体験のチラシ

【質疑応答】

<資料①>

審議委員：助成金・補助金の実績を知りたい。

⇒（助成金）協定者数：約 50 名

秦山…19 名 葛島山…10 名の地権者による組織団体（葛島山保会）ノツゴ山…18 名
と梶ヶ浦防災会）

筆数：約 30 筆（1 つの土地に複数の地権者あり）

助成額：約 50 万円

（補助金）件数：年間 1 ～ 2 件

ノツゴ山は毎年地元の防災会が森林ボランティア組織に委託をし竹林整備を行っている。
補助額は約 20 万円。

その他、支障木や倒木の間伐に 5 万円～15 万円ほどを補助した。

審議委員：基本的に土地所有者が、審議会で決められた方向性のもとに活動を自主的に行っているのか。
⇒ノツゴ山では地元の防災会が毎年竹林整備を行っているが、その他では行われていない。

<資料②>

審議委員：条例制定前に選ばれた 12 地区を知りたい。

⇒ ①鹿兎山 ②口天神の森 ③掛川神社の森 ④秦山 ⑤栗ノ木橋の森 ⑥木ノ峯の森
⑦池ノフチの森 ⑧棚田の森 ⑨能茶山 ⑩中山 ⑪清川神社の森 ⑫ノツゴ山

審議委員：地権者に自分の土地に生えている植物を誇りに思ってもらおう。杉林等を間伐して、元あった植生を蘇らせることにより、昔の里山の原風景が戻るのではないかと。周りの人からの喜ばれる声を聞くと地権者も自ら行動するようになる。

子供は植物にはあまり興味がないので、昆虫探しなど、別の面からアプローチしてみるのも良い。

審議委員：「残す」から「いかす」里山への方向性には共感を持つ。ただ、指定先行型でやってきたのは誇るべき事例であるので、そこは一定評価をし、「残す」と「いかす」の両輪で続けていくと良い。「いかす」の具体的なイメージとしては、葛島山の例のように、地元の意見を聞きながら、専門家の意見も取り入れ調和していくことが理想。高知市の気候にあい、生活文化に密接した形の山があれば生かしやすいのでは。

山間部では高齢化が進み、知識はあるが体が動かないという状況であるので、どのように継承していくかが問題となっている。高知市内も 10 年後にはそのようになるのではないかと懸念する。

審議委員：これから先の担い手がいったい誰になるのか、どのような形態になっていくのかが見えない。新しい担い手の形というものの議論が必要となってくる。教育の面からコミュニティを作っていけると良い。

審議委員：「残す」にしろ「いかす」にしろ、結局そこに住んでる人、関わる人が、なぜそこを大事にするのかを理解していなければ継続はしない。住民の育成が必要であり意識改革を本気でやらなければ里山は守られないし活用されない。里山にある資源も使う知識がなければただの自然物で止まってしまう。

森林環境贈与税についての取組なども考えていく必要があるのでは。

審議委員：里山保全審議会が担当するエリアの中で防災・教育の領域、そういったものが横断的に結びつきながら、総合的な地域コミュニティを形成していけば良い。

審議委員：指定している場所に人が住んでいない。里山自体に愛着が持てなければ、そこを守っていかうということができないのではないかと。

草を刈ることにより、昔の植生が戻ってくる。専門家を入れて山の再生をすることも良いのではないか。

審議委員：地域の方たちが子供たちと一緒に里山で活動しようと努力してくれているところもある。年齢問わずに関わっていけることが理想。

審議委員：炭焼きなどをやっているが、相当な付加価値を作っていないと実際の商売には結びつかない。文化の継承はできても、技術や知識をそこから先のビジネスに展開していくのが難しい。生活者の知恵だけでは難しいので、専門的な知識が必要。